

トップの部屋

自給の原点に立ち返る

有機野菜や米、豆腐、肉、魚、無添加調味料などが所狭しと並ぶ店の奥に作業場があり、さらにそこをすり抜ける、社長の居場所があった。日当たりのいい3畳の和室。毛筆が並ぶ木製机は部屋に対して斜めに取り付けられ、座ると正面が真南になる。「中国の古典で、南面すれば為さずして事が治まる」という言葉がある。会社を統べる者として見なりたいと思いましたが、「とにかく話そう」。

薬師寺で修行

異色の経歴を持つ。進学校の札幌南高を1969年に卒業後、奈良の薬師寺で修行した。修学旅行で訪れた時の体験が背景にある。「デジャヴ(既視感)ですよ。かつてここにいた、これから人生を始めない」と直感したんです。奈良で修行後、東京で中国の古琴を習うなど全国を放浪し、東洋哲学を極めよう

とした。80年前後、決定的な出会いがあった。自然農法を提唱する福岡正信氏に会い、耕さない、肥料も農薬も与えずに米を作る農業を知った。「国民は農にかえろ」「自給せよ」との言葉に感銘した。東洋哲学の「無」「空」に通じると思った。30歳を過ぎて、道が決まった。

83年、札幌市西区西野に、現在事務を務める洋子夫人と自然食品店を開き、出身地の恵庭では野菜を作った。「できるだけ人の手を加えずに、本物を誠実に作って売れば商売は成功する」と思いました。当時はお金がないから、家内とめちやくちゃ働きましたよ」と振り返る。農業の資金づくりのために始めた自然食品店がいつしか、本業になっていた。「店は、農と消費者をつなぐ大切なきずなだと思います」

住宅地の幹線通り沿いにある西野店は、朝から晩まで、買い物客が絶えない。道内外から取り寄せた食品、独自に開発したしょうゆやみそ、塩、さらには衣料、陶器まで4千種類もの商品が並ぶ。各地を飛び回って培った全国の有機農家との信頼関係を生かし、商品の7〜8割は直接、農家から仕入れている。西区小別沢にある、洋子夫人が社長を務める子会社「まほろば自然農園」では4月から11月にかけて、無農薬、無化学肥料で育てた大根、キャベツ、白菜、コマツナなど150種類の野菜を収穫。とれたて野菜で店がにぎわう。

スーパードと同じ感覚で買い物でき、家庭に必要なものがほぼそろそろ。「自然食品店としては、値段はさほど高くない」「(常連客の主婦)と受け止められている。最初はお年寄りが多かったのが、最近では食物アレルギーの子供を持つ、安全な食品を食べさせたいという若い夫婦などが増えてきました」。首都圏の消費者からもファックスで注文があ

り、商品をまとめて宅配便で送る。創業以来、生産者や商品を紹介する「まほろばだより」は3月7日で3877号を数える。

今年正月、従業員を前に心構えを語った。「右肩下がりになりましょう。真意は一人の命を紡ぐ食に携わる者として、原点の農に立ち返り、経済優先ではない店のあり方を考えようということです」と説明する。社是であり東洋哲学の小国寡民につながるという。

右肩下がりのはずが、売りは逆に伸びている。同社は西野店と厚別店の2店舗態勢。市内に計4店を展開した時期もあるが、日常業務に追われるばかりだった。「店は広げるものじゃない」と気づいた。

西野地区はスーパードの激戦区。30年余り商売を続けてきて、不況期に売り上げが落ち込んだり、苦しんだことはなかったのか。「それが、意外とスルスルと。売り上げ目標なんて掲げたことないけれど、お客さまがついてきて、助けてくださった。25年以上

「右肩下がり」

・企業データ

■まほろば	
本社	札幌市西区西野5の3の1の1
設立	1987年
業種	自然食品の製造・卸・販売
資本金	1000万円
売上高	5億7千万円(2013年5月期)
従業員	37人(14年3月現在)

- 子供のころの夢 絵描きか物理学者
- 趣味 音楽鑑賞と書
- 好きなテレビ番組 開運!なんでも鑑定団
- 好きな食べ物 どんなものでも、いただきます
- いま必要な考え方 里山資本主義

質問!

宮下周平(みやした・しゅうへい) 50年、恵庭市生まれ。札幌南高に進学後、数学者岡潔の思想哲学に傾倒。69年に卒業後、奈良の薬師寺で修行し、その後、東京で中国古琴を習うなど全国を放浪。83年、札幌市西区西野で自然食品店を始め、87年に株式会社を設立し同年、厚別店開業。12年に「倭詩(やまとうた)」(IDP出版)を出した。



3畳の社長室で「アメリカのようなマネーゲームではなく、昔の日本にあった農村、漁村の自給自足の生活の大切さを見直すべきではないでしょうか」と語る宮下周平さん。南向きの机の上には筆が並び、屋久杉の壁に能面や掛け軸が飾られている(中村祐子撮影)



わたしも一言!

米内青果(札幌)顧問=前社長
米内 功さん(76)

有機野菜の良さ教わる

中央卸売市場の仲卸人の仕事を長年してきましたが、昭和50年代後半、宮下周平社長にお会いし、初めて有機野菜を知りました。市場では、色と形がよくておいしいそうな商品が取引される。でも宮下さんは、おいしそっけだめだと教えてくれた。農業や化学肥料を使わず完熟堆肥で育てた有機野菜は、人にも環境にもやさしいと。

宮下さんに連れられて有機農業の里の宮崎県綾町を訪れて郷田実前町長と会ったり、勉強しましたよ。先代社長からは「有機で飯が食えるか」と言われ、市場でも理解者は少なかったけれど、有機の生産者を回って仕入れるようになりました。昨年、社長を退きましたが、宮下さんに教えてもらったことは心の支えになっています。

次回は「ヒットの理由(わけ)」で、キョーワ(札幌)の人気キャラクター「まりもっこり」の予定です。



(経済部 森川純)